

（主体ごとの基本的方向）

市民

基本的方向1 市民一人ひとりの、環境保全活動実践を支援・促進する

自己の日常生活と環境問題の関わりへの気づきにつながる啓発を実施し、市民の自主的な活動を促進します。また、福岡市の人口構成の特徴を踏まえ、対象に応じた啓発を行います。

目的・取組み・具体例

◆市民が環境問題を身近なこととして捉え、日常の生活と環境問題との関わりを認識する。

➡日常生活と環境問題のつながりに気づくような環境教育・学習

・出前講座

：家庭でのごみ減量をはじめ、再生可能エネルギーや越境大気汚染、地球温暖化のような難しい問題についても、市民の理解を深めるため、地域の公民館などに出向いて直接説明【環境局】

・カプトガニ放流会

：絶滅の危機に瀕しているカプトガニの現状を認識するとともに、自然保護意識の高揚を図るため、地元の小学生などとカプトガニを放流【環境局】

・市内でとれた食材に親しむ機会の提供

：地元でとれた新鮮な魚介類を使ったお魚教室（玄海うまかもん食育事業）や市民感謝デーにおける長浜鮮魚市場の一部開放、市内産の米・新鮮な野菜や果物・鶏卵や肉、乳製品などの畜産品・魚介類などを展示即売する農林水産まつりの開催、福岡市の朝市・夕市・直売所の情報発信など【農林水産局】

市民感謝デーにおける長浜鮮魚市場の一部開放の様子。こうした機会を通して地産地消の取組みが広まり、食材の輸送などにおける環境負荷が低減されるとともに、市民が自然のめぐみを感じ、福岡市の環境に対する愛着や保全の意識が高まることが期待されます。



◆市民が環境保全行動を日常的に実行する。

➡環境行動を促す支援事業や啓発事業、取組み事例の情報発信

・ECOチャレンジ応援事業

：省エネや環境イベントへの参加などの環境保全に寄与する行動に対して、商品や交通系ICカードの乗車ポイントなどと交換できるポイントを付与【環境局】

その他、福岡市環境行動賞【環境局】、「緑のカーテン」プロジェクト【環境局】、電気自動車等購入補助【環境局】、住宅用エネルギーシステム導入補助【環境局】、マイバッグ持参によるレジ袋削減の取組み【環境局】、環境1日乗車券「エコちかきっぷ」【交通局】 など

◆あらゆる世代の市民が、ライフステージに応じた環境教育・学習に取り組み、環境保全活動において活躍する。

➡学校等における、成長段階に応じた環境教育・学習
(→基本的方向3)

➡若年層に対する環境啓発および環境保全活動の支援

・単身世帯向け啓発

：若年層も多い単身世帯に対し、ごみ減量・リサイクルについて啓発【環境局】

・エコ発する事業

アンダーサーティ
：市民団体をはじめ、環境活動に取り組む U - 30 (30歳以下) 世代の団体にも資金面等で支援を行い、市民団体との交流も推進【環境局】

その他、環境局ホームページでの取り組み紹介【環境局】 など



単身世帯用ごみ減量のパンフレット

めざすこと

アンダーサーティ
これまで30歳以下の若年層を U - 30世代と称して若年層への環境啓発を実施してきましたが、さらに今後はあらゆる事業においてU-30世代への環境啓発を行っていきます。

また、スマートフォンやタブレット端末を活用するなど情報発信を工夫し、広く環境について啓発を進めていきます。

➡環境保全活動における高齢者の活躍促進

・福岡市環境行動賞

：市の環境保全・創造に貢献した個人・市民団体・学校・事業者を表彰。地域清掃や地域集団回収など、多くの高齢者が環境保全活動において活躍しており、このような取り組みについて、表彰を通して広く知らせることで、高齢者をはじめあらゆる世代の活動への参加を促進【環境局】

その他、市政だよりや公民館だよりといった、高齢者にも伝わる媒体を活用した情報発信 など

めざすこと

情報発信においては、高齢者にも情報が伝わるよう配慮・工夫を行っていきます。

また、真夏の打ち水や壁面の緑化など、自らを取りまく環境の中で、快適で豊かに生活する昔ながらの知恵を高齢者は培っており、このような知恵は環境保全の取組みに活かすことができます。また、若い世代との交流の場をつくることで、高齢者が持っている昔ながらの環境との共生のための知恵や知識、技術、環境への思いなどを伝える機会を提供していきます。



浴衣で打ち水を行っている様子

◆転入者や外国人がごみの出し方などの基本的なルールを理解し実行するとともに、福岡市の環境について愛着を持ち、地域の環境活動にも参加する。

➔転入者や外国人への環境啓発・環境マインドの育成

・ごみのルールブック

:多言語で作成し、区役所などの窓口で配布【環境局】

その他、出前講座などによる留学生への基本的なルールの周知【環境局】、多言語による配布物の作成など



ごみのルールブック

めざすこと

ごみ・資源物の分別方法や、資源物の回収拠点について広く周知するため、スマートフォンやタブレット端末で調べやすくするなど、情報発信を強化していきます。

また、転入者や外国人が積極的に環境保全に取り組むためには、まず、福岡市や地域の環境について理解し、愛着を持ってもらうことが必要です。例えば、「福岡市の再生水利用は日本初で、供給箇所数も日本一であることから、水という視点で福岡市の環境について知ってもらう」「福岡市は渡り鳥の中継地であることから、大半の日本の渡り鳥の動向がわかる」など、外国人や転入者をはじめとした市民に福岡市や地域の特徴を知ってもらうため、あらゆる切り口での発信が考えられます。そこで、行政だけでなく、市民団体や事業者なども各々の専門性を活かして積極的に発信することが必要であり、そのための支援を検討していきます。



秋～冬にかけて見られるダイシャクシギ
(東区和白干潟)



環境にやさしい街・ふくおか
福岡市の再生水利用は日本初で
供給箇所数は日本一です。



校区の公民館でも環境の講座が実施されているよ。そうした取組みを支援・促進することも大切だね。